

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	人間福祉研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 各指導教員による教育方法を明確化し、その方法の適切さの検討・見直す。	→研究会、FD委員会数。	B
2. 学位授与のための教員の指導体制を充実させる。	→研究科による学位授与に関する年4回の指導。	C
3. 大学院生を対象とした授業内容や方法、シラバスに関するアンケート調査を実施し、評価する。	→大学院生に対するアンケート調査の報告書の作成。	D
4. 国内外の学術誌への投稿や学会での発表の機会を支援する。	→国内外の学術誌の投稿数および学会発表数。	B
5. 成績評価および単位認定のプロセスを透明化する。	→成績評価および単位認定の基準やプロセスの公表。	C
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.3.1	(方針) 教育方法を明確化し、指導体制を充実させる。授業内容、方法、シラバス等を評価する。国内外の学術雑誌への投稿や学会発表の機会を支援する。 (現状説明) 授業形態は、講義、演習、実験等の様々な方法ですでに実施している。特に、ディスカッション等の授業方法を用いることにより、学生の主体的参加を奨励している。研究指導計画の作成やそれに基づく学位論文作成指導についてはまだ実施する段階にいたっておらず、大学院諸問題検討委員会で検討中である。
☆ 小項目6.3.2	(現状説明) 各教員ともシラバスを作成しており、それに基づいた授業を展開している。
☆ 小項目6.3.3	(現状説明) 各授業の評価方法や評価については、ホームページ等のシラバスで明示している。

☆ 小項目6.3.4	(現状説明) 教育成果の定期的な検証とその改善については、まだ十分な取り組みを行っていないのが現状であるので、今後、取り組みべき課題である。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項	
小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策	
小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	教育成果の定期的な検証とその改善についてはまだ十分に組み合わせていない。
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	大学院諸問題検討委員会において検証方法を検討する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
☆ その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○評価項目6.3.2について、「シラバスに基づいた授業を展開している」と現状説明されていますが、「目標」3の記述では、院生へのアンケート調査等は実施されていないようです。「シラバスに基づいた授業」はなにによって担保されているのか、その検証システムはどうなっているのか、説明が求められます。

【学内委員】

○現状説明の記述はおおむね明確です。
○大学院生に対するアンケート調査の実施について現状を書いてください。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 各授業のシラバスについてはウェブ上で公開している。教員がシラバスに基づいて授業を展開しているかどうかの評価は、当該授業を受講している大学院生への授業評価やアンケートで把握することができる。ただし、2009年度は、アンケートを実施していないので、2010年度以降の課題となる。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

<個別的な指標>
